

謹賀 新年

2019年の輝かしい新春を寿ぎ

心からお慶びを申し上げます

平成31年、平成の締めくくりに新春を穏やかに迎えることができ、町民の皆さまには謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、全国的に地震や台風、局部的豪雨などの自然災害が多発し、甚大な被害がありました。函南町内におきましては、幸いなことに、人命におよぶような大きな災害もなく、平穏無事に1年を過ごすことができました。

また、昨年12月1日に開催されました「第19回 静岡県市町対抗駅伝競走大会」では、選手の実力はもとより、スタッフや町民の皆さまの応援を力にし、見事「町の部」で通算5回の優勝、かつ大会新記録で2連覇を果たし、平成30年の良い締めくくりとなりました。

新たな元号となる今年、10月から消費税が10%となり、人口減少、少子高齢化の加速は増すばかりです。地方財政は依然として厳しい状況であり、労働力人口の減少により大幅な税収の増加は見込めない一方、超高齢化の進行に伴う社会保障費増加の一途をたどっています。

こうした現状を踏まえ、今年、第六次函南町総合計画の前期基本計画の中間の年であり、その基本理念である「環境・健康・交流都市函南

平成31年の新春を迎えるにあたり町議会を代表し、謹んでご挨拶を申し上げます。

町民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

平成30年に選ばれた、今年の漢字一字は「災」でしたが、幸いにも函南町は昨年、大きな災害もなく平穏な年となりました。そして、被災地を支援する国民の意識が醸成され「スパーボランティア」と呼ばれる人達の活動が目された1年でした。

6月の大阪府北部で発生した地震で、ブロック塀が倒壊し登校中の小学生が巻き込まれる災害が発生しました。当町でも学校などの施設で緊急点検が実施され、危険なブロック塀の撤去・修繕が速やかに行われています。また、9月には北海道胆振地方で発生した地震で最大震度7が観測され、苫

東厚真火力発電所が損壊し北海道全体が停電する「ブラックアウト」状態が発生しました。7月の豪雨災害では、西日本で多くの河川が氾濫し、岡山県真備地区では堤防の決壊で家屋が浸水や流失したほか、広島県呉市でも多数の土砂崩れが発生し、大規模な災害が相次ぎました。

当町においても他人事とは思わずに、発生が予想される南海トラフ巨

「住んでよし訪れてよし函南町」に基づき、活気溢れる函南町を目指し、快適に健康で安心して生活できるための事業を進めてまいります。

また、財政の健全性確保の観点から行財政改革に引き続き取り組むとともに、更なる創意工夫をこらして、限られた財源の重点的かつ有効的な活用に努めます。

第六次総合計画における3つの政策分野「環境」「健康」「交流」の今年の重点政策は次のとおりです。

「環境」の分野では、近年多発している自然災害に備え、防災減災対策を継続し、住民の生命や財産を守るとともに、安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

「健康」の分野では、教育現場へのエアコンの設置を進めるとともに、誰もが元気に生活できるよう福祉施策と子育て支援の充実を図ってまいります。

「交流」の分野では、今春、狩野川河川敷に「川の駅」が供用を開始し、出水時の防災機能のほか、年齢性別を問わず多目的に楽しんでいた水辺広場や水防多目的センターなどを整備します。隣接する、道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」、昨年末にオープンした「めんたいパーク伊豆」を含め、それぞれの特色を

大地震や風水害にも備えて、食料など備蓄の必要性やハザードマップでの避難経路の確認など、普段から訓練を積み重ねて、いざと言う時に迅速な行動がとれるよう町民の防災意識の高揚を図っていくことが重要であると再認識いたしました。

国内の情勢では、平成から新元号に代わり新しい時代を迎えようとしています。また、消費税の増税や幼児教育・保育の無償化など、国政においても本年は大きな変革の時期を迎えようとしています。人口減少や少子高齢化という社会の流れの中で地域活力の維持、持続可能な町政運営、道路や学校などのインフラの維持・更新、医療・福祉政策による社会保障増加の財政的負担は、国だけではなく地方自治体にとっても直面している課題であります。

そのような中で、平成29年5月にオープンした道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」では、来場者がオープンから1年半で200万人を突破し、函南の新たな交流拠点となつていきます。隣接する川の駅では、水防多目的センター建築工事が着手され、いよいよ本年完成いたします。災害時には水防活動の拠点として利用され、水辺広場も整備されて平常時には新たな観光情報発信拠点となる

函南町長 仁科 喜世志



生かし、相乗効果が得られるもの大いに期待しております。

2020年東京オリンピック・パラリンピック自転車競技開催を契機に、道の駅・川の駅「伊豆ゲートウェイ函南」が、伊豆地域への通過点ではなく、玄関口として立ち寄っていただき、町内への多くの「交流」が図れるよう、今後も運営体制の指導強化を行ってまいります。

また、現在の町の施策や財政状況を町民の皆さまにより広く正しくお伝えし、町民のニーズを的確に捉え、函南町に合った独自性の高い施策を町民の皆さまと共に立案するために、各地区に出向き、皆さまの声を耳を傾け、町民一人ひとりが主役となるまちづくりを進めてまいります。

べく、道の駅との相乗効果によって、さらに人々の交流や賑わいを創出する場となることが大いに期待されています。一方で、朝夕の交通渋滞が函南町で常態化する中、オリンピック、パラリンピックなど交流人口増加に対応した交通基盤の整備を早期に実現する必要があります。また、町のスポーツ界では静岡県市町対抗駅伝競走大会で函南町が町の部において大会新記録で大会2連覇を成し遂げ、町民に元気を届けていただきました。駅伝チームの中から2020年東京オリンピック・パラリンピックでも活躍を期待されるような選手が育っており、「スポーツのまち函南」宣言での取り組みが確実に実った結果であります。

町政においては、将来を担う児童・生徒の教育環境の整備のため幼稚園

激しい変革の流れの中にあつて、しっかりとした将来展望に立ち、町民と行政が丸となって、町の発展と健全な行政運営を図ってまいります。と考えておりますので、皆さまの格段のご理解とご協力を賜りますようお願いします。

今年度は、足元を固め、慎重に準備し、大胆かつスピード感を持ってまっしぐらに、将来を見据え、安全安心な函南町を目指し、誠心誠意全力で取り組んでまいります。

結びに新年を迎え、町民の皆さまの更なるご支援とご協力をお願いするとともに、今年1年平穏で、皆さまにとりまして、ご健勝で多岐多岐となりまして、ご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

預かり保育の拡充、幼稚園、小・中学校のエアコン整備や函南中学校大規模改修工事が行われるなど、第六次総合計画の策定から3年目を迎えて、着実に「環境・健康・交流都市函南」の実現に向け、さまざまな施策の展開が図られています。

議会としましても、町民の皆さまが「函南らしさ」を感じられるよう、議会の果たすべき役割と責任を自覚し、皆さまの声を町政に反映させて「函南に住んでよかった」と実感できるように努めてまいります。

結びに、新しい年が活力にあふれ、皆さまにとりまして健やかな年になりますよう、心から祈念するとともに、町議会へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



函南町議会議長 石川 正洋